

「誕生後の40日間」 ルカ 2：21～38

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ①ヨハネとイエスの対比（特にルカの福音書）
- ②皇帝アウグストによる人口調査の勅令
- ③ベツレヘム滞在中の出産
- ④羊飼いたちへの告知

(2) きょうの箇所

- ①誕生後の40日間の出来事
- ②A. T. ロバートソンの著書では、§12がイエスの割礼、§13が神殿での奉献。

2. アウトライン

- (1) イエスの割礼（21節）
- (2) エルサレム上り（22～24節）
- (3) 預言者シメオン（25～35節）
- (4) 女預言者アンナ（36～38節）

3. メッセージのゴール

- (1) 福音のユダヤ性
- (2) 福音の普遍性
- (3) 真の信仰者たち

このメッセージは、イエスの働きの意味について学ぼうとするものである。

I. イエスの割礼（21節）

1. 21節

「八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である」

(1) バプテスマのヨハネとの対比

- ①8日目の割礼
- ②命名
- ③すでに天使によって告げられていた名

(2) ここでは、割礼よりも命名に中心がある。

- ①ルカ1:31でマリアに告知
- ②マタ1:21でヨセフに告知
- ③イエスはヘブル語でヨシュア。「主は救い」という意味。
- ④幼子の働きの内容を描写した名前である。

## II. エルサレム上り (22～24節)

### 1. 誕生後の40日間の流れ (レビ12:2～4)

(1) 男の子を産んだ場合は、7日間汚れる。

- ①祭儀的な汚れである。

(2) 8日目に割礼を施す。

- ①新生児が最も免疫力がある時

(3) 33日間家に留まる。

- ①「出血の汚れが清まるのに必要な33日の間」
- ②「聖なる物に触れたり、聖所にもうでたりしてはならない」
- ③実際は、出産した婦人への恵みの期間となる。

(4) 40日が満ちたとき (レビ12:6～8)

「彼女のきよめの期間が満ちたなら、それが息子の場合であっても、娘の場合であっても、その女は全焼のいけにえとして一歳の子羊を一頭と、罪のためのいけにえとして家鳩のひなか、山鳩を一羽、会見の天幕の入口にいる祭司のところに持って来なければならない。祭司はこれを【主】の前にささげ、彼女のために贖いをしなさい。彼女はその出血からきよめられる。これが男の子でも、女の子でも、子を産む女についてのおしえである。しかし、もし彼女が羊を買う余裕がなければ、二羽の山鳩か、二羽の家鳩のひなを取り、一羽は全焼のいけにえとし、もう一羽は罪のためのいけにえとしなさい。祭司は彼女のために贖いをする。彼女はきよめられる」

①いけにえを捧げることが命じられている。

\*全焼のいけにえ(燔祭、焼き尽くす捧げ物)は、1歳の小羊1頭。

・ギリシア語で「ホロコースト」である。

\*罪のためのいけにえ(罪祭、贖罪の捧げ物)は、家鳩のひなか、山鳩1羽。

②例外規定

- \*2羽の山鳩か、2羽の家鳩のひな
- \*全焼のいけにえと、罪のためのいけにえとする。

## 2. 22～24節

「さて、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。——それは、主の律法に『母の胎を開く男子の初子は、すべて、主に聖別された者、と呼ばれなければならない』と書いてあるとおりであった——また、主の律法に「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定められたところに従って犠牲をささげるためであった」

(1) 2つのテーマが交差対句法で展開されている(キアスモス、キアズム)。

- ①A マリアの清め(22節a)
- ②B イエスを捧げること(22節b)
- ③b イエスを捧げること(23節)
- ④a マリアの清め(24節)

(2) マリアの清め

- ①レビ記12章の規定に基づく
- ②「彼らのきよめの期間」とあるのは、夫婦一体であることを示している。
- ③場所は、婦人の庭からイスラエルの庭に入るためのニカノルの門(15段ある)。
- ④マリアは、貧者のための例外規定を採用した。

\*東方の博士たちは、まだベツレヘムに到着していなかったことが分かる。

(3) イエスを捧げること

①出13:2

「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである」

②出13:15(父から子への言葉)

「パロが私たちを、なかなか行かせなかったとき、【主】はエジプトの地の初子を、人の初子をはじめ家畜の初子に至るまで、みな殺された。それで、私は初めに生まれる雄をみな、いけにえとして、【主】にささげ、私の子どもたちの初子をみな、私は贖うのだ」

③贖いの代価は、銀5シェケルである(民18:15～16)。

④ところが、両親は贖い金を支払ったとは書かれていない。

⑤旧約聖書の例:サムエルの母ハンナ(1サム1:27～28)

『この子のために、私は祈ったのです。【主】は私がお願いしたとおり、私の願

いをかなえてくださいました。それで私もまた、この子を【主】にお渡しいたします。この子は一生涯、【主】に渡されたものです。』こうして彼らはそこで【主】を礼拝した」

⑥両親はイエスを神に捧げた。

### Ⅲ. 預言者シメオン（25～35節）

#### 1. シメオンの登場

##### (1) 25節

「そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた」

##### ① 2人の証人

\*シメオンは預言者

\*アンナ（ハンナ）は女預言者

②ヨハネの場合は、割礼と命名の後、ザカリヤによる賛美と預言があった。

\*イエスの場合も同じである。

\*シメオンによる賛美と預言がある。

③シメオンが誰なのかは分からない。果たしている役割が重要である。

④彼は、旧約的な意味での義人である。信仰によって救われている。

⑤「イスラエルの慰められることを待ち望んでいた」

\*メシアの到来による慰め

⑥「聖霊が彼の上にとどまっておられら」

\*旧約的な意味での聖霊の支配

##### (2) 26節

「また、主のキリストを見るまでは、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた」

①生きている間に、メシアが誕生するという啓示があった。

②「主のキリスト」とは、「ヤハウェによって油注がれたお方」という意味である。

##### (3) 27節

「彼が御霊に感じて宮に入ると、幼子イエスを連れた両親が、その子のために律法の慣習を守るために、入って来た」

①聖霊の導きがあって、宮に入った。

②「神殿の境内」（新共同訳）

③聖所とは違う。

- ④ちょうどその時、イエスの両親がイエスを連れて入って来た。  
\*目的は、「その子のために律法の慣習を守るため」である。  
\*マリアの清めも目的のひとつであるが、関心がイエスに向けられている。

## 2. シメオンの歌 (28～32 節)

「すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて言った。『主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です』

### (1) 直訳

「今こそ、あなたのしもべを去らせてくださいます、主よ。…」となる。

- ①「今こそ」に強調点がある。  
②シメオンの歌を「ヌンク・ディミティス」と言う(ラテン語)。  
③彼は歴史の目撃者となった。

### (2) 「私の目があなたの御救いを見たからです」

- ①イザ 52 : 10  
②ヘブル語の言葉遊びがある。  
\*イエシュアとイエシュアー(救い)

(3) 「私の目があなたの御救いを見たからです。御救いはあなたが万民の前に備えられたもので、異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です」

- ①異邦人に救いをもたらす。  
②イスラエルの民の光栄となる。  
③イザ 42 : 6

## 3. シメオンの預言 (33～35 節)

「父と母は、幼子についていろいろ語られる事に驚いた。また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。『ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人々が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人々の心の思いが現れるためです』」

### (1) 両親の驚き

- ①天使の告知以上の内容である。  
②初対面のシメオンがこれほどまでに幼子の将来を預言した。

(2) 預言の内容

- ①メシアは、イスラエルの民を二分する。
- ②高き者は低くされ、低き者は高くされる。
- ③「反対をうけるしるし」とは、ユダヤ人から拒否されるということ。
- ④現在形の受動態分詞。継続した動作。今もこの状態が続いている。
- ⑤メシアにどういう態度を取るかによって、人の心の思いは明らかになる。

#### IV. 女預言者アンナ

1. アンナの登場（36～37節）

「また、アセル族のパヌエルの娘で女預言者のアンナという人がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代のあと七年間、夫とともに住み、その後やもめになり、八十四歳になっていた。そして宮を離れず、夜も昼も、断食と祈りをもって神に仕えていた」

(1) 84歳の女預言者

- ①アセル族のパヌエルの娘
- ②どうしてアセル族という部族名が出て来たのかは、分からない。
- ③権威づけのためか。

(2) 「夜も昼も」

- ①ヘブル的表現
- ②いつも、という意味

2. アンナの預言（38節）

「ちょうどこのとき、彼女もそこにおいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った」

(1) 彼女の預言は、省略されている。

- ①シメオンと同じような預言があったと思われる。

(2) 彼女は、イエスのことを言い広めた。

- ①イエスはこの段階から、有名になった。

結論：

## 1. 福音のユダヤ性

(例話) 昼から一挙に夜になるのではない。カイザリヤで見る日没。

旧約時代から新約時代への移行

### (1) ルカの福音書の中の4つの詩篇

- ① エリサベツの歌 (1: 42~45)
- ② マリアの賛歌 (1: 46~55)
- ③ ザカリヤの歌 (1: 68~79)
- ④ シメオンの歌 (2: 28~32)

\* 詩篇の形式を保持しつつ、内容は極めて新約的である。

### (2) メシアは割礼を受けたユダヤであった。

- ① メシアは100%、モーセの律法に従われた。
- ② ガラ4: 4~5

「しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。これは律法の下にある者を贖い出すため、その結果、私たちが子としての身分を受けようになるためです」

\* 神の子は人となられた。

\* 神の子はユダヤ人となられた。

\* 「律法の下にある者」(ユダヤ人)を贖い出すため。

\* ユダヤ人も異邦人も、子としての身分を受けようになるため。

### (3) マリアとヨセフは、モーセの律法に従っていた。

## 2. 福音の普遍性

### (1) シメオンの預言の中にあるメシア預言の引用

#### ① イザ42: 6

「わたし、【主】は、義をもってあなたを召し、あなたの手を握り、あなたを見守り、あなたを民の契約とし、国々の光とする」

\* 「民の契約」とは、民と契約を結ぶ仲介者の意味。

\* 「国々の光」とは、異邦人のためのメシアという意味。

#### ② イザ49: 6

「主は仰せられる。『ただ、あなたがわたしのしもべとなって、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする』」

\*イスラエルを救うだけではない。

\*異邦人の救い、福音の普遍性がこの段階で認識されている。

(2) 福音は、ローカルなものから、徐々にユニバーサルなものに移行していく。

①本来のキリスト教は、西洋的なものではない。

### 3. 真の信仰者たち

(1) 神はイスラエルの残れる者(レムナント)を通して働いておられる。

①シメオンは、「イスラエルの慰められることを待ち望んでいた」(25節)

\*メシア的希望である。

②アンナは、「エルサレムの贖いを待ち望んでいる人」(38節)

\*メシアによる救いの希望である。

\*彼女は、同じ信仰を持つ人たちに幼子のことを語った。

③アリマタヤのヨセフ(ルカ23:51)

「この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤというユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた」

\*メシア的王国を待ち望んでいた。

④パウロの証言(使24:15)

「また、義人も悪人も必ず復活するという、この人たち自身も抱いている望みを、神にあって抱いております」

\*終末的希望である。

\*義人は、永遠の命に復活する。

\*悪人は、永遠の滅びに復活する。

(2) 真の信仰者に共通するのは、神の計画の成就への希望である。

①携挙

②再臨

③復活(栄化、体のよみがえり)